

## 機関連携プロジェクトに求めるもの

平成 25 年 10 月

総合地球環境学研究所は、その基本理念および研究活動の基本方針に基づき、個別連携プロジェクト（現行の連携研究プロジェクト）、未来設計プロジェクト（現行の基幹研究プロジェクト）、機関連携プロジェクト（新規）の 3 種類の研究プロジェクトを実施します。ここでは、このうち機関連携プロジェクトの提案にあたって、研究内容に求められるものを整理します。これらが機関連携プロジェクトの到達目標となるので、予備研究（F S）の提案に際しては、これらの項目を十分に検討していただくことを期待します。

なお、提案の際には地球研が指名する所内対応者と十分に相談しつつ研究を設計していただくことが必要です。また、プロジェクト形成の過程で、提案時のプロジェクト種別とは異なる種別として設計することが適切と判断された場合には、所内対応者からプロジェクト種別の変更を提案することがあります。

### 1. 研究プロジェクトの種類

- (A) **個別連携プロジェクト**（現行の連携研究プロジェクト）・・・個人または少人数の研究者による独創的研究のアイデアに基づき実施するもの
- (B) **未来設計プロジェクト**（現行の基幹研究プロジェクト）・・・地球研のイニシアティブのもとに、これまでの研究所プロジェクトの成果等を設計科学としての新たなフレームで統合するもの
- (C) **機関連携プロジェクト**（新規）・・・地球研が定める要件にしたがって、大学・研究機関との協定のもとで、共同研究として公募・実施するもの

## 2. 機関連携プロジェクトに期待する研究内容

機関連携プロジェクトには、研究内容が特に下記の項目を満たすことが期待されます。F S 提案に際しても、これらについて可能な限り検討をお願いします。

### (1) 連携機関の研究リソースの活用

連携する研究機関（大学・研究機関等）がこれまでに蓄積してきた地球環境学にかかわる独自の研究リソースを十分に活用するものであると同時に、地球研との連携、並びに関連する国内外の研究者コミュニティとの広範な協働を通じて、さらなるイノベーションが期待できること。

### (2) 地球研の研究資源の活用

地球研のこれまでの研究プロジェクトの成果、および未来設計イニシアティブが探求してきた設計科学としての統合のアプローチを活用し、連携機関だけでは実現が困難な独創的な研究の地平を開拓するものであること。

### (3) 地球研における地球環境学推進への貢献

地球研が推進する人間と自然系の相互作用のあり方の解明を基軸とする未来設計に資する地球環境学の推進に、機関連携を通じて新たな視点とアプローチをもたらし、革新的な成果を生み出す可能性を有すること。

さらに、地球研の研究プロジェクトには、すべての種別に共通する以下の5項目を満たすことが期待されています。機関連携プロジェクトにおいては、特に（4）、（5）、（6）、（7）を重視いたします。

### (4) 解決すべき地球環境問題の明確化

研究プロジェクトが解決を目指す地球環境問題が独自の視点から明確に定義され、その解決が持続可能な社会の構築と人類の福利の向上に資するものであることが明示されていること。

### (5) 課題解決に駆動された学際的な統合

前項で明示された地球環境問題の解決に資する学際研究であり、そのために必要な学問分野を有機的に統合するものあること。

### (6) 社会的インパクト

研究成果が単に学術コミュニティにおけるインパクトにととまらず、地球環境問題の解決を促す可能性を持つこと。

### (7) 国際的な共同研究の推進

当該の地球環境問題の解決にかかわる独創性と高い学術性を有し、国際的な研究をリードしうること。

### (8) トランスディシプリナリティ

当該の地球環境問題の解決にかかわる社会の多様なステークホルダーと協働した研究設計（co-design）、研究の推進（co-production）、研究成果の活用（co-delivery）のプロセスを可能な限り取り入れた研究であること。